

ずいそう

建機ミニチュアの世界

杉 山 誠



皆さん、「建機ミニチュア」と聞いてどのようなものをイメージするでしょうか。男子であれば幼い頃、トミカやプラスチックで出来たおもちゃで遊んだのではないのでしょうか。建機ミニチュアの世界は、油圧ショベル、ダンプ、ブルドーザー、クレーンなど多機種あり、材質としてはプラスチックで出来たおもちゃ、ダイキャストで出来たもの、真鍮で精密に出来たものなどがあります。建機ミニチュアメーカーとしては海外が圧倒的に多く、日本は少ないです。また、厚紙やプラ板、真鍮などを使い、ハンドメイドで建機ミニチュアを製作されている方もおり、私も油圧ショベルに付けるアタッチメントをよく製作します。建機のミニチュアを集める楽しさや魅力は……私自身もよく分からないのですが言葉では表現できない心惹かれる何かがあります。

物心ついたときから建機好き

私は静岡県伊豆の出身です。父親が建設業（現場監督）の仕事をしていたので、幼い頃から現場に連れて行ってもらい、朝から晩まで飽きずに建機を見ていました。ときにはオペレーターさんの膝の上に座り、建機に乗せてもらったのも記憶にあります。物心ついたときから建機が好きで、将来は建機のオペレーターか父親みたいな現場監督になろう！と思っていました。

現在は、幼少期に抱いた夢が実現して建設会社で現場監督をしています。

建機ミニチュアとの出会い

建機ミニチュアと出会い、集め始めたのはいつ頃だろうか。幼い頃から親に買ってもらったおもちゃは建機のものばかりでした。その頃を買ってもらったものは遊びに遊んで壊れてしまい、今は残っていません。本格的に集め始めたのは大学生の頃で、東京都神田にある建機ミニチュア専門店「ケンクラフト」との出会いがきっかけでした。そこには今まで見たことのない建機のミニチュアがずらり並んでいました。私はギャンブル、たばこ、飲酒はやらないので、アルバイトで貯めたお金はほぼ、ミニチュア代に注ぎ込みました。大学生活4年間で、100点くらい集め、就職してからも給料はミニチュア代に注ぎ込み、その数は200、300と年々増えていきました。

建機ミニチュア博物館について

私が博物館を作ろうと思ったきっかけは2011年、長野県伊那にある「はたらくじどうしゃ博物館」の館長、土田さんとの出会いでした。そこには世界中の建機ミニチュア約20,000点が展示されており、今でも



写真—1



写真—2

初めて見たときの驚きと感動は忘れられません。また、「高度経済成長期を乗り越えてきた英雄は建設機械お前たちだ!」、「未来を担う子供たちに夢を」をコンセプトに博物館をやっている土田さんの考えにも感銘を受けました。いつか自分が集めてきたものを色々な方々に見てもらいたい、そして少しでも建設業や建機に興味を持ってくれる人が増えてくれたらいいと思い、2013年からコツコツと準備を始め、2015年に「建機ミニチュア博物館」を作りました。

現在、トミカやダイキャスト、真鍮で作られた精巧な建機ミニチュアなど約2,000点を展示しています(写真—1, 2)。

また、中学生時代にコマツテクノセンターに行って初めて建機のカatalogをもらい、それからコツコツと集めたカatalogも約5,000冊保管しています。

今後の夢

幼い頃見た建設機械の中で、特に印象に残っている建機が2つあります。それは日本車輛 スクレープドーザー（通称：日車メンク）とコマツ パワースプ

リッタ（BP500-3）です。日車メンクは小学生の頃、造成工事の現場で初めて見て、轟音と振動を立てて、見る見るうちに大地を削っていく姿に感動し、好きになりました。BP500は中学生の頃、新設道路工事の現場で初めて見て、巨大な転石を簡単に割るのを見て凄い機械だなと感動しました。まずはこの印象に残っている2機種のミニチュアをハンドメイドで製作したいと思います。そしていつかは建機ミニチュアに留まらず、実機を手に入れ、展示したいと思います。定年退職はまだまだ先の話ですが、退職後は、建機の写真を撮りに出かけたり、建機のハンドメイドモデルを作ったりする日々を送りたいです。

今、建設業は人手不足と言われています。建設業はインフラ整備、災害復旧等で欠かす事の出来ない業種です。インフラ整備、災害復旧等をするには建機が必要です。建機ミニチュアを見たのをきっかけに、少しでも建設業や建機に興味を持ってくれる人が増え、そして一人でも多くの人が建設業に従事していただけたらうれしいです。

—すぎやま まこと 建機ミニチュア博物館 館長—

